子どもが開きたくなるキャリア・パスポートにするために【活動編】

令和８年６月　義務教育課

「やまぐちPRIDE」の醸成の観点から振り返ることができるようにしてみましょう

こうした教材については，小学校から高等学校まで，その後の進路も含め，学校段階を超えて活用できるようなものとなるよう，各地域の実情や各学校や学級における創意工夫を生かした形での活用が期待される。国や都道府県教育委員会等が提供する各種資料等を活用しつつ，各地域・各学校における実態に応じ，学校間で連携しながら，柔軟な工夫を行うことが期待される。

（出典：小学校学習指導要領解説特別活動編p. 83/中学校学習指導要領解説特別活動編p. 73）

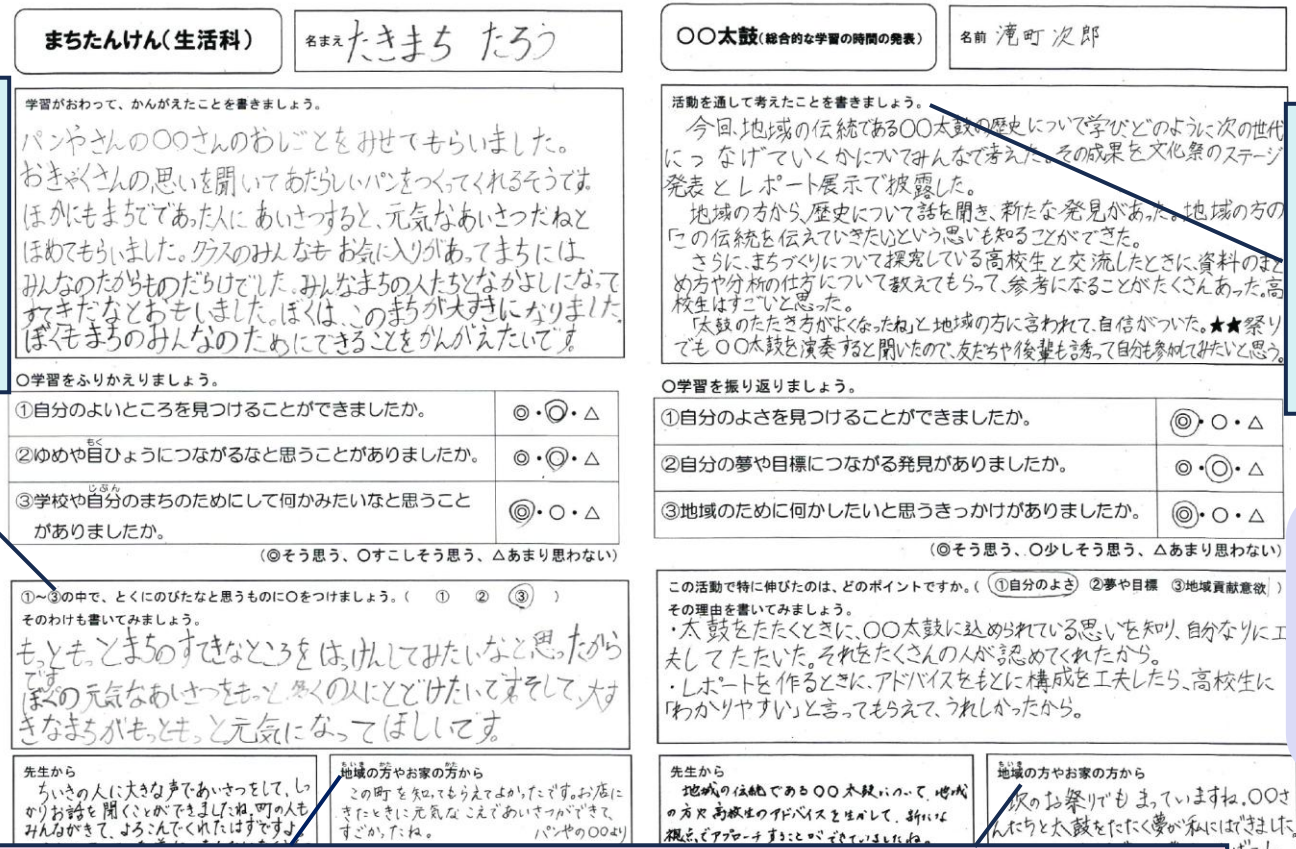
※ここでお示ししているものは例です。学校の実態や学校・地域連携カリキュラムに位置付けられている活動に合わせて創意工夫することが重要です。

単元の始めには、この活動を通して、どんな力を身に付けることができるのかを子どもと共有できるようにすることが大切です。

３つの観点について振り返るだけでなく、特に伸びたと思う点とその理由を記述するという方法も考えられます。

授業の中で、記述を基に対話的に関わる活動を設けるなどの工夫をすることで、書くことが目的にならないようにすることが大切です。

子どもが自分自身で見通しをもったり、振り返ったりして、検証・改善のサイクルを回せるようにしましょう。



まちたんけん（生活科）　名まえ　たきまち　たろう

学習がおわって、かんがえたことを書きましょう。

パンやさんの○○さんのおしごとをみせてもらいました。おきゃくさんの思いを聞いてあたらしいパンをつくってくれるそうです。ほかにもまちでであった人にあいさつすると、元気なあいさつだねとほめてもらいました。クラスのみんなもお気に入りがあってまちにはみんなのたからものだらけでした。みんなまちの人たちとなかよしになってすきだなとおもしました。ぼくは、このまちが大すきになりました。ぼくもまちのみんなのためにできることをかんがえたいです。

○学習をふりかえりましょう。

①自分のよいところを見つけることができましたか。	◎・○・△
②ゆめや目ひょうにつながるなと思うことがありましたか。	◎・○・△
③学校や自分のまちのためにして何かみたいなと思うことがありましたか。	◎・○・△

（◎そう思う、○すこしそう思う、△あまり思わない）

①～③の中で、とくにのびたなと思うものに○をつけましょう。（　①　②　③　）

そのわけも書いてみましょう。

もっともっとまちのすきなところをはっけんしてみたいなと思ったからです。ぼくの元気なあいさつをもっと多くの人にとどけたいです。そして、大すきなまちがもっともっと元気になってほしいです。

先生から

ちいさい人に大きな声であいさつをして、しっかりお話を聞くことができましたね。町の人もみんながきて、よろこんでくれたはずですよ。

地域の方やお家の方から

この町を知ってもらえてよかったです。お店にきたときに元気なこえであいさつができて、すごかったね。　パンやの○○より

○○太鼓（総合的な学習の時間の発表）　名前　滝町 次郎

活動を通して考えたことを書きましょう。

今回、地域の伝統である○○太鼓の歴史について学びどのように次の世代につなげていくかについてみんなで考えた。その成果を文化祭のステージ発表とレポート展示で披露した。

地域の方から、歴史について話を聞き、新たな発見があった。地域の方の「この伝統を伝えていきたい」という思いも知ることができた。

さらに、まちづくりについて探究している高校生と交流したときに、資料のまとめ方や分析の仕方について教えてもらって、参考になることがたくさんあった。高校生はすごいと思った。

「太鼓のたたき方がよくなったね」と地域の方に言われて、自信がついた。★★祭りでも○○太鼓を演奏すると聞いたので、友だちや後輩も誘って自分も参加してみたいと思う。

○学習を振り返りましょう。

①自分のよさを見つけることができましたか。	◎・○・△
②自分の夢や目標につながる発見がありましたか。	◎・○・△
③地域のために何かしたいと思うきっかけがありましたか。	◎・○・△

（◎そう思う、○少しそう思う、△あまり思わない）

この活動で特に伸びたのは、どのポイントですか。（①自分のよさ　②夢や目標　③地域貢献意欲）

その理由を書いてみましょう。

・太鼓をたたくときに、○○太鼓に込められている思いを知り、自分なりに工夫してたたいた。それをたくさんの人が認めてくれたから。

・レポートを作るときに、アドバイスをもとに構成を工夫したら、高校生に「わかりやすい」と言ってもらえて、うれしかったから。

先生から

地域の伝統である○○太鼓について、地域の方や高校生のアドバイスを生かして、新たな視点でアプローチすることができましたね。

地域の方やお家の方から

次のお祭りでもまっていますね。○○さんたちと太鼓をたたく夢が私にはできました。ありがとう。

このように書けている子どもにはもちろんのこと、書けていない子どもに対しても、教員や地域の方、保護者が対話的に関わったりコメントをしたりすることで、子どもたちの自己肯定感を高めることができます。